

就労移行支援プログラム

障害者や引きこもりの若者の活性化



龍谷大学チーム・ノーマライゼーション
社会福祉法人向陵会

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

トリムタブ (Trim Tab)とは、
舵の先端にある小さな部品を指します。
この部分が動くことで初めて船全体が動き、
大きな船の進路を変えることができます。

20世紀を代表するアメリカの技術家であり思想家
“現代のレオナルド・ダ・ヴィンチ”バックミンスター・フラーは
この働きになぞらえ、

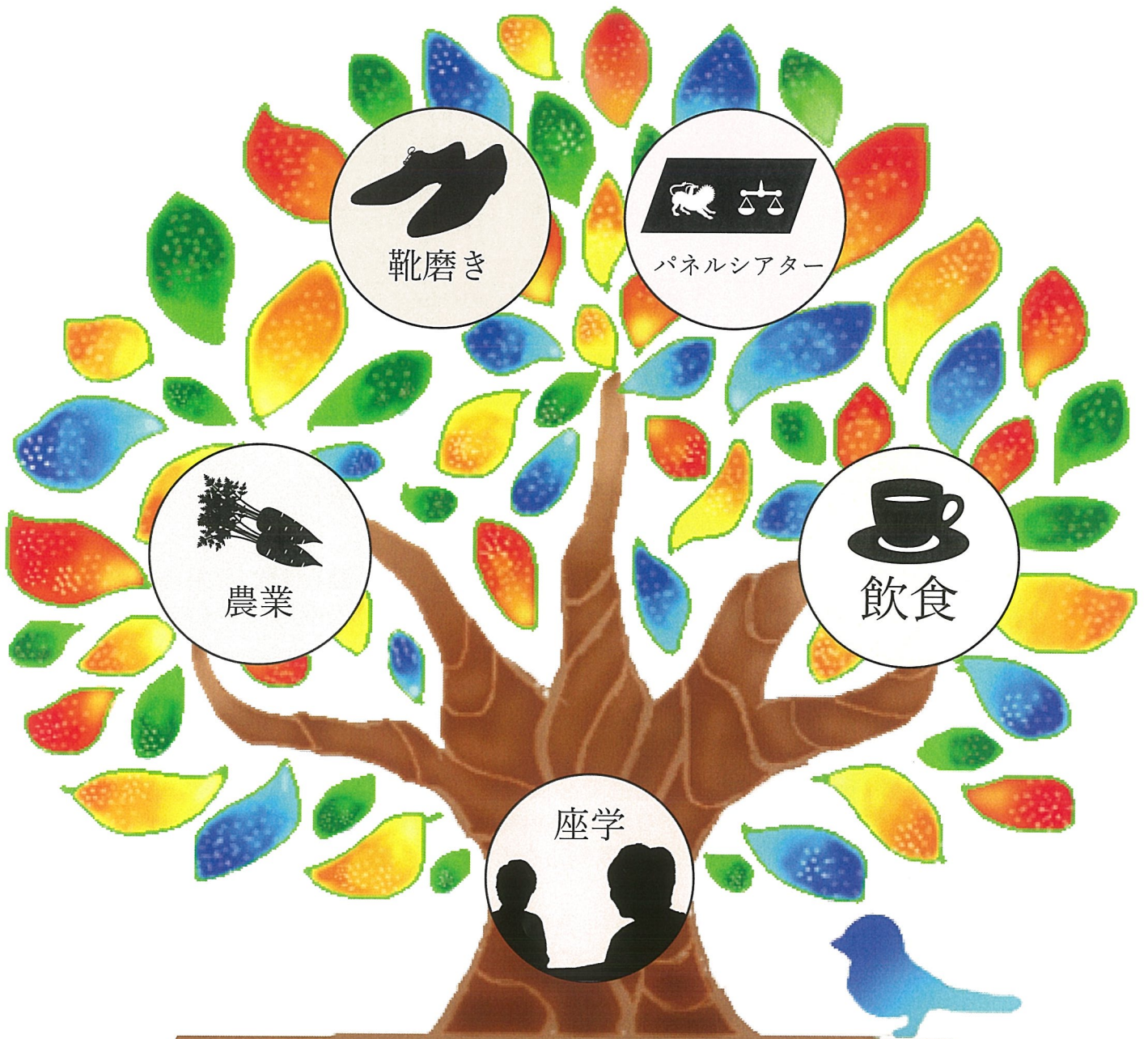
「か弱い個人でも最大限の決意を以って正しいことを行えば、
人類という巨大な船を動かす得る。」
と主張しました。

また、次のようにも述べています。

「私たちの人生の目的は、
現在、そして未来の世代の人々のために
新たな貢献をすることである。」

私たちも
『関わる全ての若者と障害者が自らの行動によって
周囲に良い影響を与えられる人になろう』
という想いを込めて

“TrimTab College”
と名付けました。



エンパワメント・プログラム

障害者や引きこもりの若者の可能性を引きだす！

エンパワメント(湧活)

エンパワメント(湧活)とは人々に夢や希望を与え、勇気づけ、人が本来持っているすばらしい、生きる力を湧きださせること。

人は誰もが、すばらしい力を持って生まれている。

そして生涯、すばらしい力を発揮し続けることが出来る。

そのすばらしい力を引きだすことがエンパワメント、ちょうど清水が泉からこんこんと湧き出るように、一人一人に潜んでいる活力や可能性を湧きださせることを〈湧活〉という。

チーム・ノーマライゼーションのMission(使命)

障害者や引きこもりを含む若者の活性化は国家財政を軽減するための重要課題です。平成28年より施行された「障害者差別解消法」や、平成30年に義務化される「障害者雇用」に対応する形で若者の活性化を図る必要があります。

そこでチームノーマライゼーションでは2つのMissionを掲げています。

▷障害者や引きこもりの若者が〈世に光を与える〉ことに挑戦する!

▷障害者や引きこもりの若者の家族の高齢化と将来不安をサポートする!

〈企業アンケート・ヒアリング調査〉報告

今回の調査でヒアリングした企業の声は障害者に対して「働く意欲」を求めるものであった。健常者と同様に「働く意欲」がなければ仕事を続けていくのは難しいとの人事担当者の意見が多かった。

障害者従業員が「働く意欲」を持つことは大事な雇用促進要素と言える。

トリムタブ・カレッジにおいても「人生で必要なことは何か?」「人としてどうあるべきか?」などの考え方を障害者と健常者が一緒に議論し、「働く意欲」を持ち、主体的に生きる人材となることを目指している。

これまで「働く意欲」や「主体性」といった要素の重要性は、障害者雇用に関する議論の中で、ほとんど展開されてこなかった。

その理由としては知的・精神・発達障害者に対して「働く意欲」を求めるのはいかなるものか、という考えが存在する為ではないだろうか。

それは「障害者に働く意欲を求めるのは無理」という意識から来るのかも知れない。また障害者に「働く意欲」を求めることは「雇用が難しい現状の責任を障害者側に転嫁する考えだ」という意見もあるだろう。

しかし、「働く意欲」を持っている障害者は技術習得に向けて一生懸命努力し、その結果、職場でプロからもお墨付きをもらうほど実力を身に着けている。

このことから「働く意欲」とそれを引き出す環境の重要性が明らかになった。障害者も働きがいを持って仕事ができれば、仕事の質も向上し、結果的に障害者の雇用も促進されるだろう。

障害者側も企業側もどうすれば「働く意欲」を持てるかを探求することが重要な課題となっている。(チーム・ノーマライゼーション活動報告書より)

カレッジ概要



トリムタブ・カレッジは”龍谷大学チーム・ノーマライゼーション”と”社会福祉法人向陵会”が「障害者と学生、若者が共に学び、高め合う場を創りたい」という想いの中、”産・学・官・福”連携によって準備を重ね開講致しました。障害者や引きこもりの若者が〈カレッジ生〉として参加しています。

カレッジでは「人格を磨くメソッド」と「技術を追求する4つの実践」を軸としたカリキュラムを作成し実施しています。自らが起点となって周囲に影響を与える〈トリムタブ〉の役割を担う人材の養成を目指しています。

障害者と学生が同じ時間と空間を共有し、2年間のカレッジの生活を通して社会に出るために必要な力を身につけていきます。

実践では「カフェ業務」「靴磨き」「農業」「パネルシアター」の4つのコースがあります。何よりも《利他の心》を養い、コミュニケーションスキルを磨くことを目標としています。

2年目には企業へのインターンも実施し、就労の準備へと繋がります。

また、就職後もジョブコーチ支援を通して、企業への定着化を計ると共に、職場での理解を深めるためのセミナーなどを随時行います。産業界や行政側の支援のもと、障害者やあらゆる若者に魅力のあるカレッジを目指しています。

《週間タイムスケジュール》

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
09:00~09:15	登校・スケジュール確認・確認シート記入				
09:15~09:35	朝礼（体操・挨拶・発声練習）				
09:35~10:00	パネルシアター	パネルシアター	コーラス	コーラス	パネルシアター
10:00~11:00	メソッド				
11:00~11:45	昼食				
11:45~12:15	移動				
12:15~13:15	アルバイト				
13:15~13:30	休憩				
13:30~14:30	実践（OJT）				
14:30~15:00	振り返り				
15:00~15:30	移動				
15:30~16:00	終礼・下校				

メソッド



メソッドはトリムタブ・カレッジの”土台”です。人格を磨くためには「何が必要か?」を考え、独自のメソッドを追求しています。何よりも原理原則を大切に、あらゆる問題を「自分自身が変えること」で周囲に良い影響を与えられるような人間になることを目指しています。

◇座学

メソッドを土台として、他者への思いやりを大切にしながら、テーマに沿って率直に議論を深めます。カレッジ生たちは当初、戸惑うこともありましたが、《座学》への参加を重ねるごとに自信を持ち、やがて自分から進んで発言したり、学生たちに意見や指摘をするほど成長しました。授業の時間だけでなく日常生活の中の行動にも変化が起きました。家に帰ってからも自ら進んで家族の手伝いをするなど、習慣化できるようになりました。学生もカレッジ生たちの変化に刺激を受け、自分たちの行動を見直す努力につながり、お互いの成長を促す機会となっています。《座学》はカレッジ生と学生が時間と空間を共有し互いに議論を重ねることでカレッジが掲げている「共に学び、高め合う」を実現しています。

◇校外での学び

トリムタブ・カレッジでは他に様々な活動を行い、《座学》で学んだことを実際に行動することを目標にしています。京都市内の寺社仏閣や施設を訪問したり、学生が自らの特技を活かしてカレッジ生たちと共に体験しています。これらの活動によって《座学》で学んだことを、ただ知識とするのではなく、実際の行動に移しています。その結果、自らの学びと成長を実感し、足りないところがあれば再びカレッジで話し合いをします。座学と実際の体験、この二つをサイクルとして繰り返すことで人間的に成長していきます。



飲食(カフェ業務)



飲食の実践は龍谷大学深草キャンパス内にある《Café樹林》にて行い、学生が共に働く空間となっています。学生や若者の”プラットフォーム”である樹林では、生ライブなどのイベントや展示会など様々な企画を取り入れています。

◇カフェでの実践

実践では「カフェ業務」と「接客」を行います。単純作業を反復するのではなく、フードを作ったりポテトを揚げたり、ドリンクを入れたり、レジをしたりと様々な仕事を体験します。お客様と接する機会を増やすことで吐嗟の対応力やコミュニケーション能力を高めています。

「障害者が働いているから買ってあげよう..。」ということではなく、しっかりと味と値段、接客のクオリティを高めて営業をしています。利用するお客様も年々増加し、学生・教授・職員・地域などたくさんの方に愛されるカフェとなっています。

〈接客の心〉を養うことで自らを律し、他人を敬う気持ちを高めています。将来どんな職業に就いてもカフェでの学びと経験が活きる機会となるように工夫を重ねています。

◇様々な取り組み

カフェでは新しい取り組みを多数行っています。

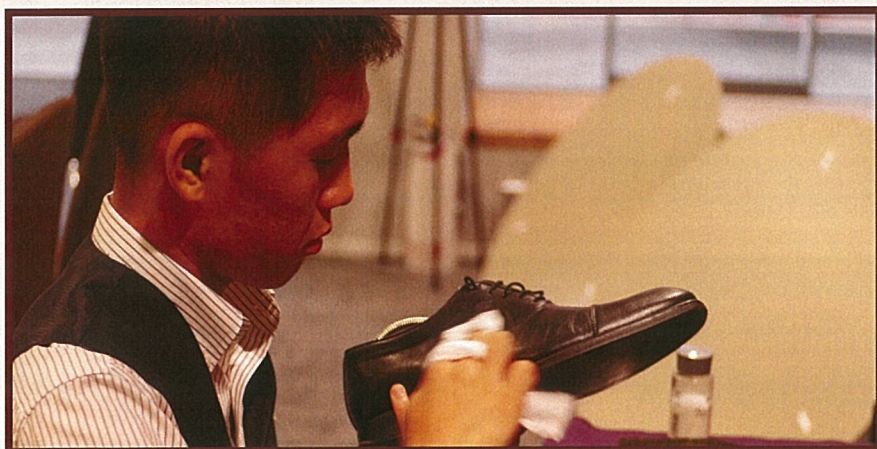
農業の実践で収穫した野菜を使った新商品の開発やキャンパス内でコーヒーの販売を行うイベントなど、より多くのお客様と触れ合う機会を創っています。

学生が考えた企画にカレッジ生がただ参加するのではなく、企画の段階から参加します。学生と一緒に意見を出し合い、イベントや商品を考案しています。

Café樹林を訪れる全てのお客様にとって居心地のよい空間となるよう定期的に音楽サークルや文化サークルなどと連携し、店内ライブや展示会を行っています。



靴磨き



大阪の「靴磨き専門店Burnish」にご協力いただき、本格的な靴磨きの技術を身につけました。さらに、実践によって、カレッジ生たちが職人の技術を習得できるように修練を重ねています。

◇本物の職人を目指して

靴磨き専門店では技術を学んだ学生がカレッジ生に直接技術を伝えています。はじめのうちは左右という概念が理解できないことや、手順や道具の名前をなかなか覚えられず苦戦していました。

しかし、地道に実践を取り組み、それらを克服しました。靴磨きの技術も言語化が難しく感覚的な部分もあります。しかし、工夫や修練を重ねることでカレッジ生も遜色のないクオリティの磨きを提供できるようになりました。また、靴を磨くだけでなく、お客様とのコミュニケーションが必要不可欠です。実践の中で礼儀や言葉遣い、身だしなみを意識するよう指導を行い、すべての業務において、プロフェッショナルなものを提供できることを目指しています。

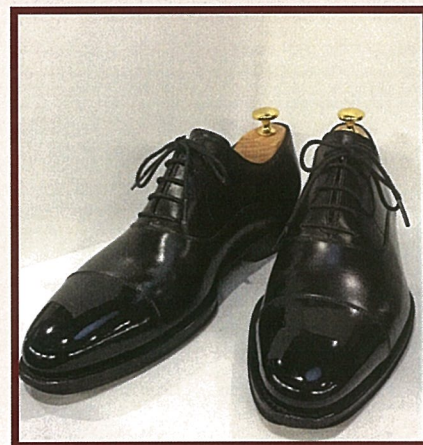
そして、なによりも、靴磨きを通して、「心を磨く」ことを最高の目標としています。

◇事業化に向けた取り組み

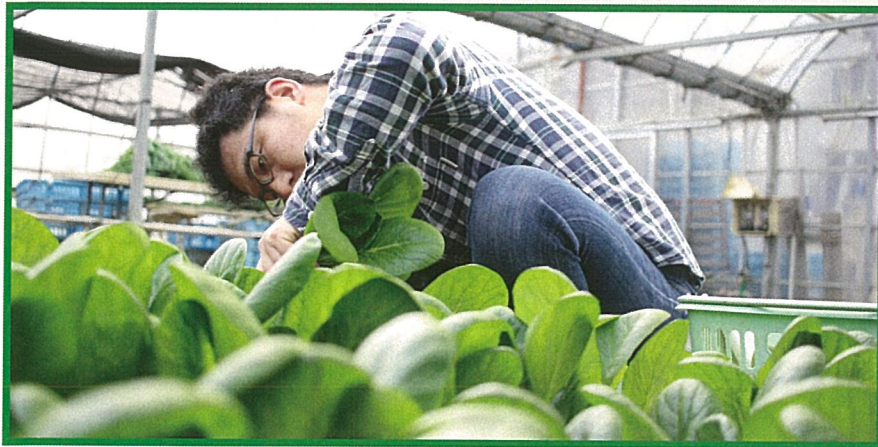
大学の教授会や企業を実際に訪問し、「出張靴磨き」を行っています。無償ではなく、料金設定を行い、「お客様の靴を預かる」という責任を強く持った上で靴を磨く経験を積んでいます。

実際にお客様とのやり取りをすることで〈お客様からの感謝の言葉や喜び〉を自分の肌で感じ、靴磨きという仕事に対するやりがい・誇りを持つようになりました。

それによって、将来は「靴磨きのお店で働きたい」という夢に向かって頑張っているカレッジ生もいます。



農業



農業は人が生きていくためには欠かすことができない産業です。トリムタブ・カレッジでは、実践の一つとして農業に取り組み、食や自然の大切さを体感しています。

◇自然を思いやる

農業生産法人と連携し、圃場での農作業に取り組んでいます。

九条ねぎや小松菜などの収穫や出荷調整、苗床作りなど、農業生産のプロセスを通して、就労への意識を高めています。

夏は猛暑の中で、冬は極寒の中で作業するため、慣れない環境にしんどさを感じることもあります。

しかし、その苦勞を感じてこそ、仕事ができる喜びを感じることができます。カレッジ生は真剣に取り組み、農作業を体感する中で自然を知り、自然に対して思いやりを持つ心を育てています。

また農作業を通じてわからない作業があれば教え合います。カレッジ生は農業の知識を皆で共有するために活発なコミュニケーションを行っています。

◇様々な活動

農業実践と共に、農業の知識を深める座学にも取り組んでいます。農作業の工程をピックアップし、学生とカレッジ生が議論を深めています。

さらにプランター栽培を行い、自らの責任で植物を育てていくことで責任感や継続力を養っています。

また、農業生産法人の野菜やプランター栽培の野菜を使用し、café樹林での商品開発を行っています。



パネルシアター



〈パネルシアター〉は不織布に絵を描いた布を貼ったり外したりすることで歌遊びや物語を行うものです。保育園や教育現場で多く実演されています。パネルシアターはカレッジ生や学生と地域の人々との交流を促すと同時に、地域貢献の場づくりを行うものにもなっています。

◇実演の目的

パネルシアターでは龍谷大学のある伏見区内の児童館に出張し、乳幼児と保護者や小学生を対象に実演を行っています。ホワイトパネルシアター、ブラックパネルシアター共に好評いただいております。

特にブラックパネルシアターは真っ黒な部屋の中でライトに照らされ浮かび上がる絵が大変美しく、幻想的な雰囲気です。年齢を問わず多くの方に楽しんでいただいております。

既存のパネルシアターだけでなく「トリムタブ・カレッジ」独自の演目を作成し、「見て楽しむ」だけでなく生活に役立つ学びが豊富に盛り込まれていることも特徴です。

◇皆でつくる

パネルシアターを行うにあたり、まずは演じる側が知識を蓄え、どうしたら伝わるか、どうしたら面白くなるかを考えます。一方的な語りになるのではなく、子どもたちとコミュニケーションをとりながら進めていきます。演者も子どもも楽しみながら互いに学びを得て、力を磨くことができます。

カレッジ生は学生と共にパネルシアターの小道具を作成し、児童館に赴き学生たちが行うパネルシアターを見学します。今後自らが前に立ち、子どもたちに向けて、パネルシアターの実演ができるよう、日々研究や練習を重ねています。



講演会・シンポジウム



講演会

『これからを担う若者が
人としてどうあるべきか』
2016年10月29日(土)

龍谷大学政策学部の中森孝文教授を
Café樹林に迎え、今の若者たちに
向けた想いを語って頂きました。



〈企業が持つ無形の強みの活用策〉を研究している中森教授は、ご自身の
研究内容も踏まえながら、〈自身の弱みを強みに変えることの大切さ〉を
話されました。

耳の聞こえないことを強みに転換してお客様同士の会話を楽しんでもらう
カフェや、障害を活かしてコミュニケーションの企業研修を行う会社の話は、
自分に自信を持ってない学生に大きな気づきを与えてくださいました。

講演会には龍谷大学の学生やカレッジ生だけでなく、他大学の学生や卒
業生からも参加し、真剣に中森教授からのメッセージに聞き入っていました。

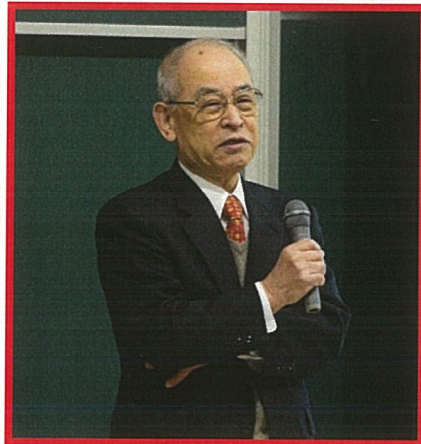


中森孝文氏
(龍谷大学 政策学部 教授)

シンポジウム

『若者の活性化と雇用を
考えるシンポジウム』
2017年01月21日(土)

龍谷大学 政策学部の中森教授と
白須教授のご協力のもと、
シンポジウムを開催いたしました。

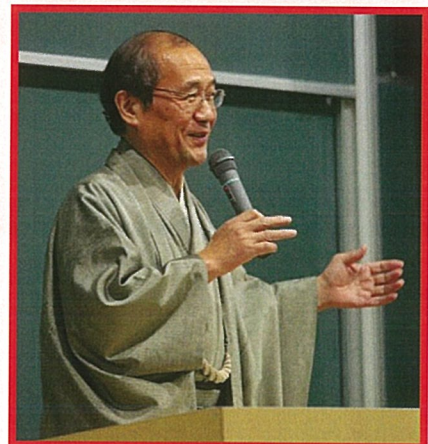


位高光司氏
(京都府社会福祉協議会会長)

京都府社会福祉協議会会長 位高光司氏の基調講演とパネルディスカッ
ション、「トリムタブ・カレッジ」の活動報告と今後の展望を発表しました。
活動報告ではカレッジで行っているメソッドと4つの実践の紹介、京都市内
の177社を対象に行った〈企業アンケート・ヒアリング調査〉の結果を
集計・分析し発表しました。

カレッジ生・学生・父兄・企業や行政の方などが参加しました。

門川大作 京都市長、龍谷大学文学部教授の入澤崇氏からは我々の
活動に対する応援のお言葉を頂戴し、今後の活動への励みとなりました。



門川大作氏
(京都市長)

◇パネルディスカッション登壇者
ファシリテーター

中森 孝文氏(龍谷大学 政策学部 教授)

パネリスト

林 明範氏(日新電機株式会社 人事部次長)

香水 雄介氏
(京都市わかもの就職支援センター
マネージングディレクター)

深尾 昌峰氏(龍谷大学 政策学部 准教授)

魚見 航大氏(龍谷大学 政策学部 四回生)

宮崎 雄大氏(龍谷大学 政策学部 四回生)



チームノーマライゼーション ファンディング（支援お願い）サイト

左記のサイトから詳細をご覧ください、
皆様のご支援をお願い申し上げます。

- ①チーム設立の経緯や活動内容
- ②座学や靴磨き、農業実践について

チーム・ノーマライゼーション Facebook リンク



日頃の活動をご覧ください。

Café 樹林 Facebook リンク



ぜひご来店ください。

〒612-8053

京都府京都市伏見区東大手町 763(若由ビル 2階北西側)

「トリムタブ・カレッジ」セミナールーム TEL 075-935-0160

京阪伏見桃山駅より徒歩5分

FAX 075-935-0161

